

韮崎工高新聞

12月号

発行所 韮崎工業高校
新聞委員会

第41回山梨県高校芸術文化祭

太鼓部、芸術文化祭賞を受賞



曲目「土魂迅雷」を演奏する太鼓部

9月から11月の3カ月間、「芸術はいつもとなり」のテーマのもと、第41回山梨県高等学校芸術文化祭(芸文祭)がYCC県民文化ホールをはじめとする各会場で行われた。本校からは郷土芸能部、写真部など7部門に参加した。その結果、来年8月に行われる全国高等学校総合文化祭和歌山大会に、太鼓部と新聞委員会が参加することとなった。

- 【郷土芸能部門】**
太鼓部 芸術文化祭賞
(全国大会へ)
- 【新聞部門】**
新聞委員会 最優秀賞
(全国大会へ)
- 【写真部門】**
写真部 久米田明(2年)
優秀賞「コロナに負けるな」(関東大会へ)
- 【家庭部門】**
杉本紫苑(2年)
優秀賞「暑い夏を乗り越えるためのマスクの1

い
○写真部・久米田明
「この作品は、コロナでマスク不足のため、手作りしている場面を撮った。テーマをコロナにして撮り、今年らしくした。もっと良い写真が撮れるように、日々練習していきたい」

○家庭部門・杉本紫苑
「今年はコロナで大変だった中、マスクを作ったり、粉を使った飛沫実験を行ったり、努力が報われた気がした。この研究発表を手伝ってくれた友だちと先生に感謝して、この結果を糧にして今後に生かしていきたい」

○新聞委員会・今村妃世里(2年)
「記事の内容を考えるのは少し苦手、難しいが、新聞委員の仲間と一緒に考えた新聞が最優秀賞に選ばれて、とても嬉しかった。これからもみんなが読みたくなるような新聞を作っていきたい」



原稿を読む石川さん

郷土芸能部門でアナウンス 石川翔琉さんが担当

郷土芸能部門のアナウンスを本校の石川翔琉さん(3年)が行った。石川さんは「大会の

前日にアナウンスを行うことが決まった。急な話だったので、驚いたが、良い機会なのでやってみようと思った。聞いてくれる方が聞きやすいようにゆっくり話すことに気をつけた。この経験がプレゼンなどに、活かしていきたいと思つ」と語った。

生徒会役員選挙が12月7日、視聴覚室で行われる

今年度の役員選挙は、すべての役員が信任投票となった。

選挙の結果は、すべての立候補者が信任され、会長に望月蒼天さん(2年)、副会長に橋本聖弥さん(2年)、宮澤一青さん(1年)が、文化局長に長林有弥さん(2年)、体育局長に山口愛留さん(2年)がなった。

新役員抱負を語る
新役員に①スローガン②具体的にやっていたこと③どんな学校にしていきたいか④抱負について、語ってもらった。

①「立ち上がり生徒で作
副会長 橋本聖弥

②「生徒一人一人が豊かで楽しめる学校」
③学園祭の完全な形での実施、意見箱の設置、球技大会の実施。
④生徒一人一人の意見を聞き、より良い学校を作れるように生徒会役員全員で取り組んでいきたい。

①「あいさつが進んで、
副会長 宮澤一青
②「あいさつ運動を行う。行事の時には生徒の意見が反映できるようにする。意見箱を設置し、生徒の意見を聞く。」
③行事だけでなく、毎日

④今年入ったばかりで、
文化局長 長林有弥
これといった政策は考えていないが全校生徒が楽しく笑顔でいられるような学校を作りたい。
④来年の体育祭は、今年以上に楽しく良い思い出となるように頑張りたい。また、球技大会も同様な気持ちで取り組みたい。
(坂本)

私たちの先生紹介

出身高校は、静岡県立掛川西高校

竹内 悟司 先生
教科・工業科 (60歳)

今回は1学年、電子機械科の竹内悟司先生。優しくて、知識が豊富な先生。そんな竹内先生を紹介する。
「趣味は山歩き(自然観察、山菜、キノコ採り)、鮎釣り、サイクリングなど。特技は柔道(二段、鳴き声だけでなく、葉っぱの形で樹木の名前がわかる)」

生徒会の良さは素直さ

「特に意識はしていないが『人事を尽くして天命を待つ』かな?振り返ってみると仕事も遊びも結果を求めて最善を尽くそうとしている自分の姿がいつもあるから」

「教員になったきっかけは、

「教員免許を取得したためかな」

「どんな高校生でしたか。」「いたって普通の高校生だった」

「高校時代の部活動。」「物理部」

「高校時代の思い出。」「伝統的に修学旅行

の代わりに実施されていた冬のスキー教室と夏の間山岳教室で、車山スキー場や志賀高原の山々に登るなど大自然に触れることができたこと」

「私たち、生徒に一言お願いします。」

「生徒の良さは明るいあいさつと素直さだと思います。素直さだけでなく、奮闘をもち、学業と部活動、資格取得などに取り組むことは自身を大きく成長させてくれると思います。バランスよく様々なことにチャレンジし、努力することで学校生活を充実させてください」

二ラテク

新型コロナウイルスの第3波が到来、気がつけば令和2年も終わりに近づいてきた。さらに、3密を避ける生活様式が求められる、冬休みも自粛生活をしなければならないのでは、今年冬の冬休みはどう過ごせばよいのか。年末といえば、やはり大掃除だろう。両親は年末になると「大掃除の前に断捨離をしよう」と、よく言っている▼断捨離とは、自分にとって不要なものを断ち、それを捨てること。簡単にいうと、必要なものと不要なものを分け、不要なものを捨てること。自分自身を見つめ直し、気持ちのスッキリさせるということのようだ▼では、断捨離をどのように進めていけばよいのか。まずは片付けたい場所を決め、いったん全部出してから分別することが早く終わらせるコツ。そして、洋服、本、小物や雑貨類、趣味・思い出のあるものの順に片付けをしていくのがよい。そうすると、判断力が上がり、テンポよく進めることができる。一度、断捨離をしたことがあるが、何から手を付けばよいのか迷ってしまう。あまり効果がなかった▼皆さんも、不要な物を整理し、気持ちを新たにかえ、良い新年を迎える準備を始めてみてはどうだろうか。(坂本)

第58回葦工祭 今年の優勝は3年5組



力を振り絞って綱を引っ張る3年5組

第58回葦工祭の体育祭が11月6日、「青春作つたろ。」消えた春はここにあり」のテーマのもと、本校グラウンドで行われた。例年は2日開催であるが新型コロナウイルス蔓延防止を考慮し、1日開催で行われた。体育祭の種目は綱引き、8の字縄跳び、リレー、玉入れ、借り物競争の5種目で行われた。例年盛り上がりつつあるリレー、綱引き、新種目の8の字縄跳びが大いに盛り上がった。

体育祭の結果は、縄跳びで得点をあげた3年5組が総合優勝、準優勝は3年6組、3位は2年1組であった。葦工祭を振り返って、生徒会長の小林優哉さんは「まず素直に無事、葦工祭を終えることができ嬉しく思う。コロナウィルスの影響により、葦工祭の開催も危うい中で、先生方、全校生徒の協力により、葦工祭を成功させることができた。来年の葦工祭にも期待している」と語った。

優勝クラスの喜びの声

「私たちのクラスは普段やるさいクラスだが、やる時はやるクラスで優勝を目指して練習をしてきた。本番では私たちの思い通りにでき、目標である優勝ができてとても良かった」（3年5組委員長・塩倉皇斗）

完走率99・8%で強歩大会終わる

甘利山強歩大会が10月30日、晴天の中、行われた。今年は新型コロナウイルスの関係で距離が短縮され、男子は学校をスタートして甘利山ゲート・榎池（さわらいけ）で折り返し、学校に戻るコースの約21キロ、女子は学校をスタートして栗平で折り返すコースの約15キロで行われた。



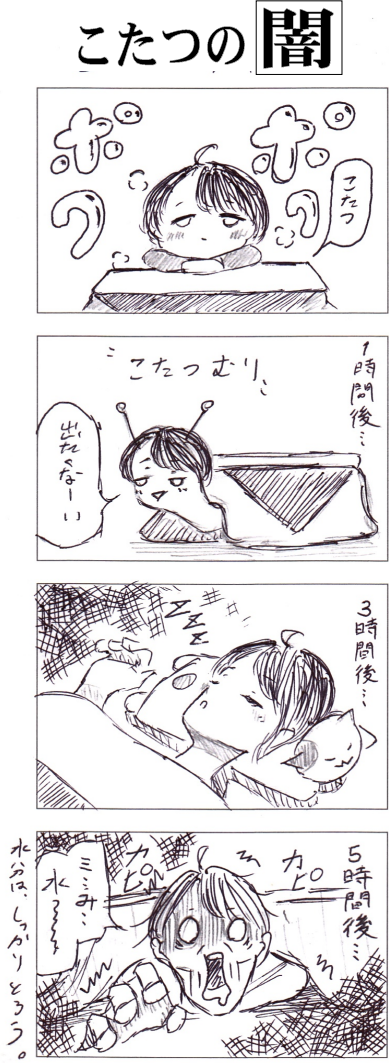
川口魁士

男子1位・川口魁士



伊藤紅葉

「今年は今までの強歩大会とは違い、距離や学年ごと走り始める時間が別だったので、自分が何位にいるのかわからなかったが、1位になることができて嬉しかった」



生徒会による 学園祭アンケート

感染症対策は9割が実施

生徒会が葦工祭終了後に、全校生徒（回答数473人）に対して、学園祭についてのアンケートを行った。新聞委員会では、その結果をまとめた。「学園祭を実施したことに」について、「良かった」が89・6%、「良くなかった」が4・9%であった。9割の生徒が実施して良かったと回答した。感染症対策について、「生徒会の提案したコロナ感染症対策について」は、「良かった」が85・4%、「良くなかった」が8・5%で、「生徒各自のコロナ感染症対策について」は、「手洗いなどに「努めた」が91・3%、「しなかった」が5・3%であった。多くの生徒

教育実習生 矢部先輩にインタビュー



矢部 和希さん
平成28年度卒・21歳
日本体育大学在学中

Q 大学の専攻は。
A 体育学部体育学科。体育の美技、筋肉の構造など体のことを学んでいる。
Q 大学に行きたくしたきっかけ。理由。
A レスリング部に所属し、なな学校でしたが、A みんなの指導やかな学校
Q 教育実習生として母校に来る葦生の印象。
A 高校時代の友だちは卒業してもたまに遊んだり、ずっと続く友だちになると思うので、友だちとの時間を大事に過ごしたいです。

「良かった」が84・1%と、全体的に良い学園祭であったことが分かる。しかし、「練習期間について」は、「良かった」が68%、「良くなかった」が21・6%。2日間の練習期間では物足りないと感じた生徒が多かったことが分かる。

「良かった」が84・1%と、全体的に良い学園祭であったことが分かる。しかし、「練習期間について」は、「良かった」が68%、「良くなかった」が21・6%。2日間の練習期間では物足りないと感じた生徒が多かったことが分かる。

「良かった」が84・1%と、全体的に良い学園祭であったことが分かる。しかし、「練習期間について」は、「良かった」が68%、「良くなかった」が21・6%。2日間の練習期間では物足りないと感じた生徒が多かったことが分かる。

「良かった」が84・1%と、全体的に良い学園祭であったことが分かる。しかし、「練習期間について」は、「良かった」が68%、「良くなかった」が21・6%。2日間の練習期間では物足りないと感じた生徒が多かったことが分かる。

編集後記

新聞発行に関わり、文章を考えることの大変さや大切さを知ることができた。これから頑張ります。（坂本）
新聞を作るためにアンケートを頼むので、多くの人と話すきっかけにできた。（樋口）
初めて1年生だけで作成したので、至らない点もあったかと思いますが、最後までお読みいただきありがとうございました。（清水）

編集担当

今月号は1年新聞委員が担当しました。
○記事担当
坂本優良、河西令、清水翔太、小泉魁翔、近藤朝陽、柳澤虎次郎、樋口揚一朗、前留貴葉、秋山和己、小尾悠斗、岡村稜芽、中込悠希
○四コマ漫画担当
横山誠人（2年）

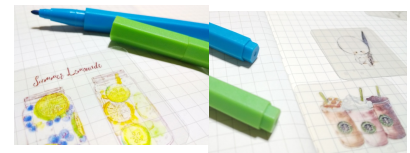


久米田萌さんの作品（3枚の組写真）
「コロナに負けるな」



河野友洋さんの作品
「太鼓」

※深沢賢太さんは全国高校総合文化祭で入賞した「閃光」で参加します。作品については、144号で紹介しましたので省略します。



藤盛紗優さんの作品（2枚の組写真）
「小さな美術館」

来年1月に、東京都で行われる関東地区高等学校写真展に、写真部4人が参加することが決まった。芸文祭で良い成績を収めた久米田萌さん（2年）、藤盛紗優さん（1年）、冬季審査会金賞の河野友洋さん（3年）、全国大会で入賞した深沢賢太さん（3年）が参加する。